

Akatake Times

今年は暖冬と言われていましたが、寒かったり暖かかったりと日によっての違いが大きかったように感じます。辰年ということで、飛ぶ龍の背のように波のある気候となったのかも？



『熱川バナナワニ園』

初めて訪れた熱川バナナワニ園。1958年に開園され今年で65周年だそうです。20種類以上のバナナの他、亜熱帯植物の宝庫。そして飼育しているワニは16種140頭、レッサーパンダは30頭以上、共に日本一だそうです。そして日本で唯一飼育展示されている、海の珍獣アマゾンマナティーなど見どころ満載でした。雨が降っても全て温室内で大丈夫。真冬でも暖かい環境で鑑賞できますよ！

撮影日：2023年10月16日 荻田 哲也

◆大地震のこと

のんびりと正月を過ごしていた1月1日の夕方、最大震度7の大地震が能登半島を襲いました。石川県によると、1月末時点で死者は238人、負傷者は1037人にものぼりました。地震大国である日本は、いつどこで再び東日本大震災級の地震が起こるか分かりません。現に「首都直下地震」「南海トラフ地震」などは、いつ発生してもおかしくない状態が続いていると言われています。

当然、1月1日だからといって、大地震が起きない理由が無い訳ですが、コロナ禍明けでようやく、故郷への帰省が本格化する中、地震に対する警戒心が薄まっていたように感じられなくもありません。とは言え、そこは人間として致し方ない部分でもあると思います。

しかし、ここでもう一度考えなければならないのは、過去何度となく日本では大震災が発生しているということであり、発生したときの準備は大丈夫か？ということ です。

どんな状況になるか分からないので、家庭では水・食料・簡易トイレ等々の確保とか、何が起こるか分からないことを想定して、準備できることはしておくことが大事なことだと思います。

中々大変な作業だとは思いますが……。

石川県の1日でも早い復旧をお祈りするばかりです。

◆言葉について

言葉のもととなる音声についてですが、面白い話を聞いたことがあります。

日本の男性が先輩や後輩に対して、最初に発するあいさつの言葉というのか、感嘆詞の音は猿と同じだということです。

京都大学霊長類研究所と東京工業大学が共同で日本人と猿の共通点を探ろうと

フィールドワークを行った結果、男性が

電話を受けたり、かけたりするときの第一声は、チンパンジーなどがジャングルで仲間と

出会ったとき、最初に発する音のパターンと似ているということが分かったということです。

どうということかという、日本人の男性が先輩から電話を受けたときは「あ、〇〇さんですか」と応対し、

後輩からだ「お、〇〇くんか」となるのだそうです。

およそ150人の男子学生やサラリーマンの集団に、先輩と後輩それぞれに電話をかけてもらい、

相手が最初に発する音声を記録・分類した結果、電話を受けた人の約9割が「あ」と「お」を

使い分けていたと言います。そしてチンパンジーも、密林中で仲間に出会ったとき、相手が自分よりも

力が強かったり長老だったりすると、「あっ、あっ、あっ」と口をひろげて声を発し、相手が弱い場合は

「おっ、おっ、おっ」と口をとがらせて威嚇するそうです。この「あ」と「お」の使い分けは、

私も無意識にしているのかな？という気がします。

かつて、私たちの先祖が類人猿の頃に獲得した生活の知恵を、数百万年という歳月を経て、

今日まで運んできているのかと思うと、何か悠久の思いにかられます。

「あ」と「お」というのが、人類が初めて使い分けた敬語かもしれない、などと考えてしまいます。

独り言は別として、言葉というのは相手があって使われるものです。

発せられた音声は符号、またそこに込められた情報以上の力を持っているならば、

言葉で相手を生かすも殺すも、使い方次第という気がします。

普段何気なく使っている言葉で、相手に嫌な思いをさせていることに気付かないこともあります。

もう一度、改めて普段の自分の発言を見直してみることが必要かもしれません。



常務取締役 秋元 祐